



インタビュに答えるダライ・ラマ十四世

た。(学芸部・池田知隆) について聞い

宗教は非暴力を貫かなければならない

オウム真理教(麻原彰晃代表)はチベット仏教の影響を受けたといひ、麻原代表はあななどの親交を流布している。「麻原代表に初めて会ったのは、一九八七年に(チベット亡命政府のある)インドのダラムサラで。それから、四、五回会っている。私に会いにくる人はどんな背景があるかと、友人として接している。彼はチベット仏教、その精神性にまじめな関心をもち、涙を見せて語っていた。私たちの学生にも寄付をしてきた。他の人のために尽くすことはいいことだ、と彼にいつてきたが、私はなにも正式に

承認することはできない。私との出会いをどう利用しようか、それは私の手の届かないところにある。彼はその後、ヒンズー教に傾いていったようだ。オウム(AUM)は密教でも使うが、主にヒンズー教で使われる言葉だ。——オウム真理教は一九九七年に世界は終末を迎え、オウム真理教で修行すれば救われる、と説いているが。

「仏教の聖典の中で、世界がそんな状況になると書かれていても、それが今世紀末ということではない。一九九七年といえど、香港が中国に返還されると

日本の若い人の間でチベットの「死者の書」がブームになったが、チベット仏教の特徴は、どのようなものなのか。「仏教の古くからの教えを完ぺきな形で守り、日本の大乘仏教、禅、密教、マンドラまですべてを含んでいる。その哲学は、すべてが相互依存している、ということだ。だから非暴力でなくてはならない。ます人のために尽くせそれができなければ、少なくとも他人を傷つけるな、という考え方だ」

「ボスニアなど世界各地の民族紛争の背景に宗教の問題がある。宗教は、民族意識、ナシ

ダライ・ラマ十四世に聞く

き。それは明らかだが、それ以外のことを私は信じていない。西洋社会において人類の将来を悲観的に見る人がいるが、人類の将来は私たちの肩にかかっている。きちんと計画し、仕事に取り組んでいけば、うまくいく。人類はそのような問題を克服できる能力がある。それが私の信念だ」

「南」と「北」のギャップが対立を引き起こし、「南」が苦しめば「北」も苦しむことになることをもっと知らなくてはならない。地球環境問題でもそういえる。お金の物の生産ばかりに目を向けてはいけない」

「では、「北」の生き方を

「家族を見ると、兄弟、姉妹でありながら、親が違ったり、立場の違いがあるのは自然なことだ。違った考え、生き方をしても家族でありうる。人類も宗教、文化の伝統の違いがあっても大きな家族だ。いまは違いが

「もちろんできる。仏教に限らずすべての宗教が寄与でき

「しかし、貧困の問題は深刻だ。『南』と『北』のギャップが対立を引き起こし、『南』が苦しめば『北』も苦しむことになることをもっと知らなくてはならない。地球環境問題でもそういえる。お金の物の生産ばかりに目を向けてはいけない」

「人権の問題は、私たちが勇気づける状態であり、民族自決もい傾向にある。それは世界の共通理解になっている。今回の「政治活動はしない」ということで来日し、約一時間半にわたるインタビューの内容は宗教、文化に限られた。笑顔

「人権の問題をめぐる世界の現状について。」「人権の問題は、私たちが勇気づける状態であり、民族自決もい傾向にある。それは世界の共通理解になっている。今回の「政治活動はしない」ということで来日し、約一時間半にわたるインタビューの内容は宗教、文化に限られた。笑顔

「人権の問題をめぐる世界の現状について。」「人権の問題は、私たちが勇気づける状態であり、民族自決もい傾向にある。それは世界の共通理解になっている。今回の「政治活動はしない」ということで来日し、約一時間半にわたるインタビューの内容は宗教、文化に限られた。笑顔

「人権の問題をめぐる世界の現状について。」「人権の問題は、私たちが勇気づける状態であり、民族自決もい傾向にある。それは世界の共通理解になっている。今回の「政治活動はしない」ということで来日し、約一時間半にわたるインタビューの内容は宗教、文化に限られた。笑顔